

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 理工学研究科・2年

氏名: 上蔀隼人

授業科目名	グローバルイノベーションのための英語研修(GOES Home)
研修先 (大学・国・都市名)	西オーストラリア大学(オーストラリア・パース)オンライン
研修期間	令和 4年 8月 18日 ~ 令和 4年 9月 27日
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(350字以上)</p> <p>研修先である西オーストラリア大学に行くことはできなかったが、オンラインによる授業を4週間受講した。授業ではリスニングとスピーキングに重点を置き、授業を聞くだけでなく自らの考えを発言する機会が多くあった。1週間ごとにテーマが設定されており、食や人、土地などに関する内容を日常的に使うフレーズやオーストラリアの文化と絡めながら学習を進めた。今回の研修で特に身についたことは、英語を話すことに対して抵抗が少なくなったということである。伝えようとする意識があれば、文法的に多少間違っている部分があっても相手に理解してもらうことができ、結果的に学習意欲の向上につながったと思う。また、毎日英語に触れることで、リスニング力の向上にもつながった。単語と単語のつながりでまだ聞き取りにくい面もあるが、会話をする上で重要なリスニング力を養うことができ、今後も継続して学習をしていきたいと思った。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(350字以上)</p> <p>オンライン研修を通じて海外の授業を日本にいながら受けることのできる利点を強く感じた。日本で今まで受けてきた英語の授業とは違ったネイティブの教師から受ける英語はとても刺激的で学びの多いものであった。人数も教師と学生合わせて十数人であったため、コミュニケーションがとりやすく、授業中であっても気軽に質問ができる環境であった。また、オンラインであるため授業ごとの移動がなく、限られた時間を効率的に使うことができたのも利点の一つだと感じた。一方で、海外とのオンライン授業だったため、日本との時差に苦労した。朝9時半から授業が始まり、途中で15分の休憩を入れて13時45分まで授業が続くため、昼食をとる時間がなく、生活のリズムを合わせるのが大変だった。オンライン授業の利点も感じたが、現地で授業を受けることができればより良い学びができると思った。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(350字以上)</p> <p>研修の前後で感じた自身の変化は、英語に対する考え方が変わったことである。今までは英語を話す機会も少なく、仮にあったとしても間違っているかもしれないという気持ちから自分からコミュニケーションをとることにに対して抵抗感があった。授業を受けていく中で、英語を話すことに対するハードルが下がり、楽しさを感じるようになった。これは、研修の1週間後に研究室の調査で海外を訪れた際に強く感じた。私にとって初めての海外で不安もあったが、今回の研修を受けていたため、現地の方の話す英語もある程度聞き取ることができ、自分の考えも伝えることができた。専門的な話になると英語では理解できないこともあったが、現地の学生と気軽に会話ができたことは自身の成長を一番感じることもできた。また、英語を学び、実際にそれを活用する経験ができたことで、学習意欲も向上した。学習を継続し、次に海外に行くときはより円滑にコミュニケーションを取りたいと思う。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(350字以上)</p> <p>オンラインの研修の後、甕島について学ぶ機会があった。実際に甕島に行き、現地の方から話を聞くことで、島の現状や現在行われている取り組みについて学ぶことができる2泊3日のキャンプである。キャンプ後は甕島で学んだことやSGDsを絡めたホームページを作成した。私は、甕島の産業と環境にフォーカスして作成を行った。甕島の人口は年々減少しており、少子高齢化が進む中で、働き手と働く場所の確保をするために行われている取り組み、人間の活動によって環境破壊を起こさないように自然と共存していくためにどうしたらよいかをまとめた。この活動で学んだことは甕島に限った話ではないと強く感じた。産業の発展と環境の保全を両立することは簡単な話ではなく、多くの問題があると思う。甕島で学んだことを活かし、今後はよりマクロな視点を持ったグローバルで活躍できる人材になりたいと思う。</p>	

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 理工学研究科・1年

氏名: 大木 美羽

授業科目名	グローバルイノベーションのための英語研修(GOES Home)
研修先 (大学・国・都市名)	西オーストラリア大学(オーストラリア・パース)オンライン
研修期間	令和 4年 8月 18日 ~ 令和 4年 9月 27日
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(350字以上)</p> <p>オンライン講義では英語を用いてオーストラリアの文化や歴史を学び、日本のものと比較した。オーストラリアと日本では食べ物や習慣だけでなく、教育に対する考え方や政治への関心など異なる部分がたくさんあった。歴史や伝統の存続危機などの国の問題については日本と似ている部分も多くあり、日本人だから他の国に何もできないという考え方は間違っているように感じた。同様に、提携先の学校に在籍している様々な国の学生と交流することで、オーストラリア以外の様々な文化にふれることができた。この研修で、英語が話せれば様々な人と交流でき、世界が広がることを実感できた。また、日本の学生たちと様々なテーマについて議論したり甑島の方々に話を聞いて、同じ国にいても考え方は全く異なることがわかり、自分の考えがいかに偏っていて狭かったかを理解できた。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(350字以上)</p> <p>今回はオンラインでの講義であり、オーストラリアについては実際に見るのではなく、資料や動画を通して学んだ。実際に行っていないので体験したわけではないが、だからこそたくさん質問ができた。特に食べ物に関しては、その場にいれば「食べて見て」で終わってしまうことを、どんな色でどんな味で何に似ているのかなど、英語でいろいろな聞き方ができた。また、ボランティアとして参加した現地の学生たちと画面に映っているものや場所、天気などの何気ない会話を楽しむことができた。日本の学生とも会ったことがないため様々な質問をしたり、普段の生活について聞くことができた。この研修で、現地で会わなくても日本人だけでなく、たくさんの海外の人と交流でき、多くのことを得られることがわかった。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(350字以上)</p> <p>英語力については実際に成長したかどうかはあまり実感がなかったが、後期の英語の講義で自己紹介や自分の研究について話した時、他の学生に比べて自然に話し始めることができたため成長を感じた。また、今までは自分の思っていることを英語にうまく直せず、言葉に詰まって会話が止まるが多かったが、この研修を通して別の言葉で表現することや言い方を変えても伝わるとわかり、あまり中断せずに会話できるようになった。</p> <p>また、この研修を通して英語力だけでなく、コミュニケーションについての変化もあった。この研修には様々な専攻や学年の学生が集まっていたため、たくさんの意見を聞いて取り入れるという場面が多く見られた。そのおかげで研修前はあまり自分の意見を言う方ではなかったが、この研修中には自分の考えをたくさん伝えられたと思う。また、この研修では全く話したことのなかった人と一対一で話す機会が多かったが、遠慮ばかりしていた以前とは異なり、対等な立場で自信をもって話すことができた。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(350字以上)</p> <p>この研修で日本や他の国のSDGsについて学んだり、甑島での取り組みを実際に見たりして、たくさんの人が地域社会のために動いていることがわかった。発展させたいという気持ちがあっても行動できない人が多く、自分たちにもできることがたくさんあるのではないかと思った。これからも英語コミュニケーション力を高め、日本人だけでなく海外の人とも交流して様々な意見を取り入れ、自分たちに何ができるのかを明確にしていきたい。また、日本の文化や歴史を海外の人に伝えることや、今回学んだことを研修に参加していない学生に伝えることで、狭い考えや偏った考え方を壊し、少しでも多くの人が国を越えて協力しあえればよいと思う。様々な国の様々な人が交流して、様々な考えを出し合い、より地域に貢献できる取り組みや人材を生み出すきっかけを作れるような人を目指したい。</p>	

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 人文社会研究科・2年

氏名: 賀 芋

授業科目名	グローバルイノベーションのための英語研修(GOES Home)
研修先 (大学・国・都市名)	西オーストラリア大学(オーストラリア・パース)オンライン
研修期間	令和 4年 8月 18日 ~ 令和 4年 9月 27日
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(350字以上)</p> <p>最初にこの授業へ応募したのは英語能力を高めたかったからでした。しかし、実際の授業は、英語だけではなく、オーストラリアの現代生活、文化及びアボリジニーの文化なども授業の内容となっていました。授業の形式は主に講義と会話練習の二つがあり、スピーキング能力を高めるために、会話練習を主要とし、相互に行われていました。また会話練習は学生グループでの練習と実戦練習が行われ、その中で、UWAの学生たちやボランティアのネイティブと会話する実戦練習を通し、外国の文化を直観的に感じることができました。この授業を通して、英語の言語的能力が高まったことはもちろん、様々なオーストラリア文化をはじめとする外国異文化を味わうこともできました。自分の母国の文化とすでに馴染んできた日本文化との比較で、物事を新たな視点から見るできるようになりました。</p>	
<p>2. オンライン研修を通じて得た気づきや学びを記載して下さい。(350字以上)</p> <p>私は今回のオンライン研修を通じて、以下二点の気づきを得ました。まず、一つ目に、言語を学習することの大変さと楽しさを感じました。わたしは大学で日本語を専攻して以降、高校まで続けていた英語の勉強はほとんどやめてしまいました。日本に留学し、英語をほぼ忘れたことと、英語の勉強の必要性に気づき、改めて単語と文法を勉強し始めました。しかし、今回の授業で、もう一度自分の英語能力の不足に気づき、言語の学びは毎日の積み重ねが必要であると分かりました。そして、同時に、最初英語を話すことが怖かった私はだんだん勇気を出して、英語で会話するようになって、英語を話すことはとても楽しいと感じていました。また、言語は言語だけでなく、文化でもあります。オーストラリアの「英語」はオーストラリアの文化を反映し、その特徴から、オーストラリアの文化的特徴も捉えることができるということに気づきました。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(350字以上)</p> <p>私がかもっとも成長したのは英語の勉強を楽しいことと見なすようになったことです。授業を始める前に英語の勉強はただ必要性のあることとして考えていました。最初の授業の日には、英語の発音と言葉を間違えることが心配で、なかなか話すことができず、もちろん英語を話す楽しさを感じることができませんでした。しかし、英語の授業で先生とほかの学生たちに励まされて、頑張っしてしゃべり始めました。その後、だんだん英語の会話で、ほかの学生と知り合っって、英語でオーストラリアの文化を触れることから、だんだん英語をしゃべることを楽しく思えるようになりました。わからない言葉や間違いはまだいっぱいがあるとしても、とりあえず表現してみようという勇気を持つようになりました。今英語の先生とまた合う時に、自然に英語で挨拶をしたり会話することができています。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(350字以上)</p> <p>海外のオンライン研修は終わってから、甑島へ実習調査に行っって、初めての日に山下商店の取締役に伺うことができました。いろいろな話を聞いたり、調査に行ったり、またオーストラリアの事情との比較したりすることで、地域の発展に重要なことの一つは地域を知ることだということがわかりました。私将来観光業の仕事をしたっと思っっていて、その理由は、私が好きな日本を外国人に紹介したいからでした。しかし、これまでは、観光業とは何なのか、地域にどんな影響を与えるのかを深く理解することができませんでした。この研修に参加して、観光というのは地域の発展の役にたてる一方で、地元の生活に悪影響を及ぼす可能性があることと知りました。地元の人の生活をどうやって改善させて、そして、地元の人以外の人とどのようにして繋がれるのかという問題についてこれから考えて、勉強していきたいです。</p>	

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

## 【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 農林水産学研究科・1年

氏名: 先間晴紀

授業科目名	グローバルイノベーションのための英語研修(GOES Home)
研修先 (大学・国・都市名)	西オーストラリア大学(オーストラリア・パース)オンライン
研修期間	令和 4年 8月 18日 ~ 令和 4年 9月 27日
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(350字以上)</p> <p>学習内容としてはリスニングやスピーキングをメインとして英語を学び、その他にライティングや、オーストラリアの文化、歴史、環境などについても学習しました。リスニングやスピーキングの学習をメインで行うことで、英会話力の向上が感じられました。中学・高校では英語の学習は基本的に座学であったため、英会話については実力不足でしたが、一か月間の学習を継続して英会話力を向上させることができました。ライティングに関しては英会話の中では学習しにくい、メールを送る際の独特な言葉遣いや単語のスペルを確認する上でも重要な学習であったと思います。そして、オーストラリアについての学習では、今まで知らない内容がオーストラリアの人からしたら当たり前であったり、またその逆であったりなどを知ることができました。オーストラリアのことを学習する中で、日本の文化の新しい一面を知ることができ、外国の文化についてさらに深く学びたいと思いました。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(350字以上)</p> <p>今回はオンライン研修を約一か月間行いましたが、オンラインでも十分に英語力を向上させることができると感じました。今までは英語を完璧に上達させるには長期の留学を通して、常に英語に囲まれた環境の中で外国の文化や暮らしを体験しながら学んでいく必要があると思っていました。一方で、オンラインでは授業以外で英語に触れることはなく、日常の中で常に英語に囲まれた環境に身を置くことは困難です。また対面で話していないためリアルな雰囲気や状況を掴めないこともあります。それを踏まえた上で、もちろんオンラインの学習よりも実際に外国へ行って学ぶ方が上達は速いとは思いますが、オンラインの学習でも英語力を向上させることは十分に可能であると思います。最終的には個人がどれだけ英語を習得しようとして前向きに学習に取り組むかが大切になると思います。今回はオンラインという形で英語学習に参加しましたが、実際に外国へ行くことで言語だけでなくその土地の文化や暮らしも一緒に学びたいと考えています。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(350字以上)</p> <p>オンラインによる英会話の学習の中で最も大きな変化として現れたのは、英語で会話をする中で、相手が何を言っているのか瞬時に理解できるようになったことです。今までは英語をしっかりと聞き取った後それを頭の中で日本語に変換して意味を理解していましたが、オンライン学習を終えた今では相手の言っていることを英語のまま理解して聞くことができるようになりました。これにより会話をよりスムーズに行うことができるようになりました。会話をする中でスムーズにやり取りができるようになっていくと、私自身とても嬉しかったです。リスニングは上達したのがすぐにわかりましたが、スピーキングはリスニングほどすぐ上達していないのを感じました。これに関しては、単語の意味や発音の仕方など一つ一つを見直していく必要があります。今後も継続して英会話に挑戦し、スピーキングの力も同様に向上していきたいと思っています。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(350字以上)</p> <p>現在私は鹿児島大学大学院に所属し、焼酎についての研究や歴史・文化を学んでいます。鹿児島という狭い土地の中に焼酎を製造する酒蔵は100を超えます。これだけたくさんの酒蔵が存在することで鹿児島は焼酎県として有名であり、鹿児島の焼酎は多様性があると言えます。私はこの鹿児島の焼酎の多様性をもっと日本や世界の人に発信し、鹿児島の素晴らしさを伝えていきたいと考えています。今ではジャパニーズウイスキーや日本酒が日本で人気の酒として有名ですが、焼酎にも同じく可能性が秘められていると思うため、その魅力を最大限に生かしたいと思っています。しかし近年では酒蔵に勤める働き手が少なくなってきたり、小さい酒蔵ではごく少人数で製造しています。もしこのまま働き手が見つからないままであれば、酒蔵も廃業を余儀なくされてしまいます。鹿児島県特有の焼酎の多様性を失わないためにも、酒蔵の存続も同時に考えていく必要があります。</p>	

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 理学部・4年

氏名: 寺下あかり

授業科目名	グローバルイノベーションのための英語研修(GOES Home)
研修先 (大学・国・都市名)	西オーストラリア大学(オーストラリア・パース)オンライン
研修期間	令和 4年 8月 18日 ~ 令和 4年 9月 27日
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(350字以上)</p> <p>オンライン英語授業では、オーストラリアの文化や歴史、人々の生活について学びました。オーストラリア在住の方々にもお話を聞くことができ、大変貴重な時間となりました。日本や鹿児島との比較を行うことで、お互いの文化の違いや魅力などに改めて気がつくことができました。また、日本の学生・オーストラリアの学生たちと意見を交わす機会を多く与えていただき、習った表現や得た知識を用いながら積極的に英語を話すことができました。</p> <p>甑島でのキャンプでは、島独自の事業や人々の暮らし、土地の歴史などについて学びました。島で暮らしているの方々にお会いして多くのお話を聞くことができました。島内の施設や自然に実際に足を運び体験できたことは大きな学びとなりました。島で得た情報をもとにSDGsについてホームページを作成しました。現状を確認し、持続可能な開発をさらに発展していくためにどうすればよいかを考えたり意見を出し合ったり、活発な取り組みができました。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(350字以上)</p> <p>オンライン英語授業では、英語表現のルールをはじめオーストラリアの食事や有名な観光地、文化なども知ることができました。時制や丁寧な表現方法も教えていただき、文章の書き方も改めて学びました。英語には日本語ほどの敬語表現はありませんが、目上の人やフォーマルな場面での言葉遣いを普通の時とは変えることがあると知り、新しい気づきでした。</p> <p>また、今回のオンライン授業を通じて、オーストラリアには多くの文化があることに気がつきました。オーストラリアの大学に通う学生と話をした際に、出身地が様々だったこと、多くの国の食文化を取り入れていることなどから、多文化主義のオーストラリアの良さを感じることができました。自国とは異なる部分を見ることができ、オーストラリアへの理解が深まったことは今回の研修に参加したからこそ得られた経験だと思います。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(350字以上)</p> <p>研修前は英語に自信がなく、発言することをためらってしまうことが多かったのですが、研修を通して積極的に話すことができるようになったと思います。文法や表現の仕方が適切ではなかったとは思いますが、習った表現や知識を思い出しながらオーストラリアの学生たちと話したときに、コミュニケーションがとれているなど感じました。知っている単語やよく使う表現を組み合わせれば言いたいことを何となくでも伝えることができるとわかったので、間違いを恐れすぎずに話すことが、スピーキング力を伸ばすには大切だと思いました。これまでに日本で受けてきた英語の授業では、実際に会話をして英語能力を伸ばすことは少なく、受験などの読解のための勉強という印象がありましたが、今回のオンライン授業を受けて改めて読み書きだけではなく、話す・聞くことの重要性に気づかされました。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(350字以上)</p> <p>甑島での研修で、島の人々と協力してその地域の特色を生かした事業などを進めていることを知りました。自然や人々のかわりなど、良いところを最大限に使って発展させていこうという気持ちが強く感じられ、感銘を受けました。また、ゴミ拾いをし海岸をきれいにするといい、大事な場所の良い環境を保とうという動きもとても大切だと感じました。地域社会を発展させるには、地域の人々同士の連携が必要になってくると思うので、地域での集まりに積極的に参加することを大切にしようと思いました。地域のボランティアにも参加したり、大学内でも地域社会への貢献を目標とした活動をする機会はあると思うので、そのようなプログラムに参加したりしたいと考えました。地域の良いところをアピールして、多くの人に知ってもらうことで、より発展させていけるのではないかと思います。</p>	

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

## 【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 理学部・4年

氏名: 中村龍之介

授業科目名	グローバルイノベーションのための英語研修(GOES Home)
研修先 (大学・国・都市名)	西オーストラリア大学(オーストラリア・パース)オンライン
研修期間	令和 4年 8月 18日 ~ 令和 4年 9月 27日
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(350字以上)	
<p>西オーストラリア大学のオンライン授業で4週間英語を学んだ。現地の生徒や先生と、英語でコミュニケーションをとることで、普段日本での生活では使わない英語を用いて会話をすることができた。英語授業では、全4週間のうち、1週目に「食と人」、2週目に「場所」、3週目に「健康と幸福」、4週目に「言語と学習」をテーマに月曜日から金曜日まで、毎日4時間授業に参加した。毎週、テーマごとに、ライティング、スピーキング、リーディング、リスニングの4つの英語能力を伸ばすための授業が行われた。また、授業中は常に英語を使用するため、通常の英語授業に比べて英語に触れる時間が多かった。また、4週間の英語授業の後は、甕島で現地調査を行った。この現地調査では、オーストラリアにあるロットネス島と甕島について比較し、調査した内容を英語でホームページにまとめた。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(350字以上)	
<p>オンラインでの英語授業を通して、英語能力全般が向上したように感じた。その中でも、一番向上したと感じる能力はリスニングである。授業中は、指示も全て英語のため、英語を聞き取り、内容を理解する能力が授業を重ねるごとに向上していると感じた。スピーキング能力に関しては、今まで、英語を聞き取ったり、文法を学んだりすることはあったが、単語を発音し、現地の学生や先生とコミュニケーションをとる機会がなかったため、その能力が今回の授業を通して大きく向上したと感じる。授業中のグループワークを通じて、英語を話す機会が多くあり、自然と英語で会話する方法を学んだ。ライティングについては、自分で作成した英語の文章をネイティブの先生に添削してもらうことで、辞書には載っていない、単語の些細なニュアンスの違いまで学ぶことができた。リーディング能力はテキストの文章や、現地の新聞のコラムなどを読む機会が多かったため、英語の文章の構成などを学ぶことができた。また、授業全体を通して、英語のように言語学習は継続して学び続けることが重要だと学んだ。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(350字以上)	
<p>今回のオンライン研修では、英語を用いたコミュニケーション能力が大きく向上したと感じる。オンライン授業で現地の学生や先生と英語で会話をすることで、相手の英語を聞き取り、理解し、自身の伝えたいことを英語で伝えることが4週間の授業を通して授業前と比べて、できるようになったと感じる。4週間のうち、毎週水曜日と金曜日に現地の学生と40分ほど交流する時間があったが、最初の週は、まず相手の英語を聞き取ることができず、会話に参加することがあまりできなかったが、2週目、3週目とオンライン授業で英語に触れることで、段々と現地の生徒が何について話しているのか理解できるようになり、会話に参加することができるようになった。また、話し手によって英語の発音にクセがあり、聞き取りづらいことも多々あったが、話の概要を把握できる程度には英語を聞き取れるようになった。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(350字以上)	
<p>私は、将来研究者として医薬品や化粧品などの化学製品の開発に携わりたいと考えている。現在の研究室で、研究活動を行っている際に、論文を読んだり、実験機器を使用するときに英語を必ず使うため、研究活動には英語が不可欠であると実感した。そのため、この授業を通じて英語能力を向上させたいと思いこの授業に参加した。この授業を通じて、英語能力を向上させるための効果的な勉強法を学ぶことができたため、継続して英語を学びたい。研究者になるためには、英語論文を読んだり海外で研究したりするくらいの英語力が自分にはまだ足りていないと感じるため、現在の研究室と提携している大学に留学してみたいと考えている。また、英語を身につけることで、研究活動の幅が広がると考えている。そのため、今後も英語の学習と研究活動に熱意を持って取り組んでいきたい。</p>	

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

## 【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 理工学研究科・1年

氏名: 西富寛夢

授業科目名	グローバルイノベーションのための英語研修(GOES Home)
研修先 (大学・国・都市名)	西オーストラリア大学(オーストラリア・パース)オンライン
研修期間	令和 4年 8月 18日 ~ 令和 4年 9月 27日
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(350字以上)</p> <p>今回のオンライン研修は、月曜から金曜まで毎日9:30から13:45の時間にzoomで行われた。週ごとにテーマが決められており、そのテーマに関する英語やオーストラリアの文化について学んだ。週二回ほど西オーストラリア大学の学生と交流する時間があり、テーマに関連する質問や雑談をした。また、授業ではグループセッションが多く設けられ、与えられた課題についてグループ毎に英語で意見を交わした。授業は全て英語で進められ、教材や先生からの指示なども全て英語であった。</p> <p>私は、自身の英語力向上のためにこの研修に参加した。今回の研修を通して、英語力は向上したと感じる。特に、英語で話すことに対する苦手意識はほぼなくなったと感じている。しかし、話すときの的確な英単語が思い出せず困った場面が多かったので、もっと使える単語を増やしたいと思う。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(350字以上)</p> <p>オンライン研修を通して、自国の文化や自分自身のこと、また、自身の体験を相手に伝えられるようにしておくことの大切さに気づいた。西オーストラリア大学の学生と雑談をする機会があったのだが、相手の出身国がどこなのかという情報から話題が発展することが多かった。国際的なコミュニケーションをする上で、自国のことを理解し相手に説明できる力は大切だと感じた。また、英語を学ぶ上で、英語で話さないといけな環境に身を置くことの大切さを学んだ。研修では、自分の考えを英語で相手に伝える場面が多かった。始めは、伝えたい日本語の文を頭の中で英文にしてから話していたが、研修が進むにつれて頭の中で英文が先に浮かぶようになった。文法的には間違いもあったかもしれないが、英語を使って考える癖が身についたのだと思う。このような環境に身を置くことは、語学の習得に役立つことを実感した。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(350字以上)</p> <p>研修後は、海外へ行きたいという気持ちが強まった。私はこれまで海外に行った経験がなく、英語で話す事への苦手意識から、自ら進んで海外へ行きたいと思うことがなかった。しかし、今回の研修で、オーストラリアの文化、観光地、食べ物、動物などについて多くの事を学んだことで、海外への憧れや興味が強まり、英語のみを使う環境を経験したことで、英語で話すことへの苦手意識がかなり減ったと感じる。</p> <p>研修の中で、西オーストラリア大学の学生との会話をした経験は、とても印象に残っている。話す相手によって英語の聞き取りやすさが異なり、特に流暢な発音での話は、耳から入ってくる情報の処理が追いつかず、聞きとれた単語から内容を推測して話を進めてしまうこともあった。リスニング力を上げるためにもっと努力をしていきたいと感じた。また、自分の伝えたいことが英語で相手に伝わる経験は自信になった。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(350字以上)</p> <p>今回の研修で学んだことを活かして、今後は、海外からの観光客の助けになるような行動を進んで行いたいと思う。コロナウィルスの感染者数の沈静化や円安の影響で、海外からの観光客が増加し、地域の観光地でも海外からの観光客を目にする機会が増えると考えられる。海外からの観光客が、言語や文化の違いによる不安を感じずに、日本にまた来たいと思ってもらうために、困っている外国の方を見つけたら積極的に話しかけてみようと思う。また、自身の英語力向上と自身の視野を広げるために、県内で行われる国際交流イベントに参加していきたいと思う。今回の研修で、地元で有名な場所だが、私自身行ったことのない場所がたくさんあることに気づいた。今後は、そういった場所にも実際に足を運び、海外の方にその体験を交えて地元をPR出来るようになりたいと思う。</p>	

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 工学部・4年

氏名: 肥後陵佑

授業科目名	グローバルイノベーションのための英語研修(GOES Home)
研修先 (大学・国・都市名)	西オーストラリア大学(オーストラリア・パース)オンライン
研修期間	令和 4年 8月 18日 ~ 令和 4年 9月 27日
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(350字以上)	
<p>今回の研修では基本的な英語の文法や会話の方法、またオーストラリアの文化などをすべて英語で学んだ。基本的な文法や会話では基礎から一つずつ丁寧に学ぶことができ、自分が今まで忘れていたところなども学び直すことができた。また、研修での授業はオンライン形式で行われ、一つのトピックに対してグループを作り話し合う機会が多く設けられた。この話し合いの時間によって他の参加者の意見を聞き入れることができ、より深く学習をすることができたと思う。さらにオーストラリアの文化を学ぶ時間では、自分の知らないオーストラリアの文化を知ることができ、異文化に触れることができた。授業の中ではオーストラリアと日本を比較する時間があり、これによってどちらの国にも優劣があり、オーストラリアのことだけでなく、自分がすんでいる日本についてもより知ることができた。ただ映画を学ぶだけでなく、オーストラリアの文化などを学ぶことで多角的な考えをすることができるようになった。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(350字以上)	
<p>今回のオンライン研修では、アウトプットの重要性について改めて気づくことができた。研修中では多くのディスカッションの時間が設けられていた。授業の先生のみが話し何かを説明する時間は日本と比べて少なく、基本的な授業の内容を教えてもらった後にすぐにディスカッションがあり、グループ毎で話し合った。研修のはじめは英語で話すことに抵抗があったが、回を重ねる毎に抵抗を感じなくなっていた。今までは英語でなにかを話すことがとてもハードルが高いものだと感じていた。しかし、今回の研修を通じてアウトプットの重要性に気づき、実際に話してみることが大切であると感じた。これからはこの気づきを日々の学習に生かして、リーディングやリスニングのようなインプット中心の学習に偏らないようにライティング、スピーキングのようなアウトプット中心の学習も取り入れ、日々の学習に生かしたいと思う。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(350字以上)	
<p>最も成長した経験としては、日々の授業はもちろんのこと、週に1時間ほどある現地学生との交流があげられる。はじめのうちは何を話せば良いのかわからず、また相手が何を言っているのかもわからない時があり、普通の会話であってもしっかりとすることができなかつた。しかし、週を重ねる毎に日々の授業の成果がこの現地学生との交流で顕著に表れ始めた。はじめの頃にあった話し合いの難しさは少しずつなくなっていき、現地学生との会話を楽しむことができるようになっていった。自分の知らないことを共有してくれたときは、その内容について詳しく聞いたり、その内容に関係ある日本のことを共有したりした。こうして英語への障壁がなくなっていったことで、より深い話し合いもできるようになっていった。また、この現地学生との交流によって、日々の授業で得た知識が基礎となり、自分の学習をより飛躍させることができたと感じている。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(350字以上)	
<p>現在、私は所属している研究室にて小型ハイブリッドロケットの研究をしている。ハイブリッドロケットの目的として気象データの取得や小型衛星の運搬などがあげられる。このハイブリッドロケットの目的として挙げられているものは、どれも私たちの生活に直結し、生活をよりよいものするためのものである。したがって今後は地域社会の発展に寄与するためにも、現在の研究活動に励み、よりよい開発に努めていこうと考えている。また、自身の将来的な目標としては、現在の研究活動などを通じてよりよいエンジニアになり、ものづくりを通じて地域社会に貢献することである。さらに、今回の研修で得た経験や知識、英語の能力等を生かして、グローバルに活動でき、多角的視点で物事を考えられるようなエンジニアになりたいと思う。自分自身の成長がよりよいものづくりにつながり、そしてそれが地域社会の発展に寄与するものであると考える。</p>	



## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 農林水産学研究科・2年

氏名: 福島優美花

授業科目名	グローバルイノベーションのための英語研修(GOES Home)
研修先 (大学・国・都市名)	西オーストラリア大学(オーストラリア・パース)オンライン
研修期間	令和 4年 8月 18日 ~ 令和 4年 9月 27日
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(350字以上)</p> <p>語学学校では、英語のリスニング、ライティング、リーディング、スピーキングを練習しながら、オーストラリアの文化について学んだ。特にスピーキングに力を入れたカリキュラムになっており、毎日様々な議題について英語で討論を行い、さらに週に2回、現地の学生と交流を行った。実際のネイティブスピーカーとの会話は、リスニングやスピーキングの実践の機会となっただけでなく、互いの文化や考え方について意見交換を行うことができた。このような語学学校での体験を通して、私は英会話の瞬発力が向上したと考える。具体的には、『会話の中で、伝えたい文章を英語に変換し、それを発言するまでのスピードが速くなった』ということだ。加えて、英語学習だけでなく、オーストラリアに残るアボリジニの文化や話者が減少し続ける言語、オーストラリアの現在のライフスタイル等について学び、鹿児島および日本との差異を考察することができた。</p> <p>甕島で行ったグローバルキャンプでは、各グループに分かれ、甕島で学ぶテーマを設定し、フィールドワークを行った。住民の方や市役所の方へのインタビューや、資料館、コミュニティーの散策等で情報を集め、グループのメンバーと意見交換や情報の整理を行った。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(350字以上)</p> <p>本研修を通して得た気づきは二つある。</p> <p>一つ目は、『英語が流暢に話せないことは、恥ずかしいことではない』ということだ。私はこれまで、英語の文法や発音に自信がなく、人前で英語を喋ることを苦手としていた。しかし、誰からも否定されない環境で、毎日会話し続けることにより、その感覚が払拭されたように思う。流暢に難しい英語を喋ることよりも、「どのようにして相手に伝えるのか」を考えることの方が重要だと感じた。</p> <p>二つ目は、『継続することが語学力の向上には必須』ということだ。これは約四週間、毎日英語を喋り続けたことで、自然に英語が頭に浮かんでくるようになったためだ。語学学校初日は、会話の際に、単語すら浮かんでこず、英語を書くことと話すこととの違いを実感した。しかし、毎日会話を続けたことで、使用頻度の高い英単語は容易に頭に浮かぶようになり、簡単な文法であれば自然と文章を構築できるようになった。この経験から、語学力の向上には継続が大切であるということ学んだ。</p>	
<p>3. 研修前後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(350字以上)</p> <p>研修前後での自身の変化は大きく二つある。</p> <p>一つ目は、ライティングのスピードが上がったことだ。語学学校では、授業中にライティングの課題が与えられ、その課題を実施する時間が設けられていた。当初は、時間内に完成させることができず、放課後にも課題として取り組んでいた。しかし、最終的には難易度の上昇した課題に対しても、制限時間内に終わらせることができるようになった。</p> <p>二つ目は、地域社会が抱える問題を自分ごととして捉えるようになったことだ。そのきっかけは、島で起業している山下さんからお話を聞いたことと、青瀬地区を実際に散策して周り、初めて限界集落を目にしたことの二つである。我々は山下さんから、「人口減少は、甕島などの過疎地域だけの問題ではなく、日本全体の人口も、今後100年間減少し続ける」という話を伺った。また、起業のきっかけは、帰省した際に目撃した、島の風景の変貌に悲しみを覚えたことだという。さらに、後日我々が散策した青瀬地区の集落では、数多くの空き家が存在し、危険家屋もたくさん散見された。私はとても人口の多い地域で育ったため、人口減少や限界集落という言葉は、教科書で学習した事象であり、それらを体感したことがなかった。しかし、今回の経験によって、「将来私自身の地元も限界集落となり、危険家屋で溢れた場所になる可能性が十分ある」ことに気づいた。また、今現在も、「生まれ育った土地が限界集落となっている人々がいる」という事実にも初めて目を向けることとなった。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(350字以上)</p> <p>地域社会の発展に寄与するために、情報収集を行い、課題を見つけ、周囲とディスカッションすることで輪を広げたい。私は、本研修に参加し、甕島を訪問したことで、受動的に地域社会に存在する多くの課題を認識することができた。今後は、書籍やインターネットを活用し、能動的に地域社会についての学習を深めたいと思う。また、情報収集は、地域が抱える問題だけでなく、他地域の現状についても行いたい。なぜなら、他地域と比較することで、潜在している問題を可視化することができるからである。実際に本研修においても、語学学校でオーストラリアの生活観や文化に触れたことで、日本の抱える課題を発見することができた。私は既に、東京への就職が決定しているため、来年度から遠く離れた土地で生活することになる。これまで、地方都市で育った経験があるからこそ、地方と都心の差異や、それぞれの抱える潜在的な課題について考えていくことができると思う。また、東京という様々な地域から人が集まる場所で生活するからこそ、日本や世界の各地域に関する情報交換を行うことが容易となる。したがって、それぞれの地域社会における課題について、討論を重ねることが可能になると考える。ひとりひとりが地域社会の課題について考え、討論を通してその輪を広げていくことが、地域社会の発展につながると思う。</p>	

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 農林水産学研究科・1年

氏名: 古里 孝志

授業科目名	グローバルイノベーションのための英語研修(GOES Home)
研修先 (大学・国・都市名)	西オーストラリア大学(オーストラリア・パース)オンライン
研修期間	令和 4年 8月 18日 ~ 令和 4年 9月 27日
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(350字以上)</p> <p>西オーストラリア大学のオンライン授業は現地文化を題材に英語の4技能向上を目指したものであった。これまでの私の英語教育の経験では日本語で英語を学ぶものであり、またそれはReadingとListeningを中心とした受動的な学習であった。そのため、今回の研修のSpeaking及びWritingを通じた能動的な学習方法は自身の英語能力向上に非常に有用であった。特に、英語を利用して議論などを行うプロセスは生きた英語を養うのに役に立った。加えて、授業の題材であったオーストラリアの文化は興味深く、その中でもオーストラリアの先住民であるアボリジニの歴史、現代におけるアボリジニの状況に強い関心を持った。そして、オンライン授業後は鹿児島県の甑島に赴き、現地の方々との交流を通じて同地域の情報を収集し、その課題及び今後の可能性について検討を行った。その検討の結果をもとに、研修の締めくくりとして鹿児島県(甑島)及びパースをSDGsの観点からの比較を行い、英語を用いて同内容を専用サイトへ投稿し、今回の研修関係者へ発表を行った。以上から、今回の研修は英語能力の向上だけでなく、自身の関心の幅や視野を広げるという意味においても大変有意義であったと考える。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(350字以上)</p> <p>今回の研修は当初オーストラリアのパースに赴き、現地で開催される予定であったが、新型コロナウイルス蔓延の影響によりオンラインでの開催となった。私自身はオンラインを通じた英語学習を行った経験がなく、英語を用いてオンライン上でのやりとりができるのかと正直不安であった。しかし実際は担当講師の人柄や能力、プログラムの設計は素晴らしく、その心配は杞憂に終わった。特にプログラムの設計において、クラス全体での学習の合間にブレイキングルームにてクラス全体で扱ったテーマに関してディスカッションを行う機会が設けられていたことから、学生同士での情報の補完が可能であり、講義内容を取りこぼすことがなかった。また、その機会は学生間のコミュニケーションを促進することにも役立ち、研修の後半においてはブレイキングルームの時間が待ち遠しいほど楽しく感じていた。今回の研修を現地で開催できなかったことは大変残念であったが、コミュニケーションを図る機会が多く準備されていたことからオンラインを通じても十分に英語学習を行うことができたと思う。オンラインは場所を問わず、費用も比較的掛からないことから、むしろ語学学習においては有用なのではないだろうか。今後機会があれば積極的に活用していきたい。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(350字以上)</p> <p>研修前後での自身の変化において最も大きかったのは英語での会話に臆さなくなったことではないだろうか。研修前においては英語を話す機会はほとんどなかったため、英語を話すことに対する抵抗感が非常に大きかった。特に、英語を話すときに必要以上に文法や発音に気を使い、話す過程での自身のミスを許容することができていなかった。しかし、今回の研修を通じて英語を話す機会が十分にあり、その過程で何度も多くのミスをする中で、完璧な英語を追求するのではなく、伝える英語を目指そうと方向転換することができた。そして、それに伴って英語を話すことに対する抵抗感が薄れ、講義内で多く発言することができるようになり、次第に自身のSpeaking能力も向上していった。今回の講義を通じて多くの「ミス」をしたことにより、英語を話すことに対する抵抗感を払拭することができた。今後は自分自身から、英語を話す機会を作ることで英語能力の向上に努めたい。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(350字以上)</p> <p>私は自身の専門である林業分野、その中でも特に「持続可能な森林管理の実現」という点から地域社会の発展に寄与していきたいと考える。現在、世界において脱炭素やSDGsなどの流れが加速する中で、それに貢献することが可能な森林やその生産物である木材の持つ価値が大きくなっている。そのような流れの中において、如何に持続可能な森林の開発を行っていくかが重要であり、生産システムや流通、経営など多種多様な面からその実現に向けたアプローチがなされている。そして、その中でも私は流通や経営といった面からそこに関わっていきたいと考えている。具体的には、卒業後は木材商社に勤めたいと考えており、商社の機能である流通の仲介や事業投資を通じて、持続可能な森林管理を行う事業体を支援し、それを通じて「持続可能な森林管理の実現」を目指し、地域社会の発展に寄与していきたい。</p>	

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

## 【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 理工学研究科 2年

氏名: 脇丸太樹

授業科目名	グローバルイノベーションのための英語研修(GOES Home)
研修先 (大学・国・都市名)	西オーストラリア大学(オーストラリア・パース)オンライン
研修期間	令和 4年 8月 18日 ~ 令和 4年 9月 27日
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(350字以上)</p> <p>現地の食文化、歴史、地理、住民の人柄などについて学んだ。講義の大まかな流れとしては、①前日の課題についてのペアワーク ②教科書や記事を読んで出題される問題について考えるペアワークを数回 ③アプリを用いた英語学習のためのクイズゲームや研修先の学生とのコミュニケーション、課題が与えられて作業という流れが主であった。それぞれのグループワークの余り時間にはペアと「昨日何をしたか」、「今週末の予定はあるか」等の雑談を行う時間が与えられた。講義中は先生が学生を指名してペアで話し合った意見を発表する機会が多く与えられ、毎授業1回は全員当たるようになっており、英語を話す機会がとても多く与えられたと感じた。研修先の先生は早すぎず遅過ぎない速さで分かりやすい発音で話してくださり、研修を受ける前と後では英語のリスニング能力が上がったと感じた。研修を受ける前に比べ、他者と会話をするときによく用いる表現について沢山学び、それを実践する事で英語に対する意識が変わった事が最も大きな学習成果だと考える。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(350字以上)</p> <p>オンライン研修を通じて得た気づきは多くの日本人が持つ英語に対する苦手意識は、日本の英語の授業形式に原因があるのではないかと感じた。日本の英語の授業を通じて文章の読み書きについての能力は上がるが他者と日常会話を行えるようになる事は難しいと考える。理由としては文の構造や単語を学ぶ事に重きを置きすぎていて、雑談を行う際によく使う表現などは学んでいないからだと考える。学校で学ぶ文法に縛られすぎて、とても複雑な文章になってしまい、コミュニケーションを行う際に重要な間の取り方、意思の疎通が難しくなってしまう。研修中での英語を用いた雑談では自分の伝えたい事の表現方法が分からず、授業が終わってから次の雑談の為に日常会話についての調べものをする事が多く、雑談が出来るようになっていくうちに英語に対する抵抗感がなくなっていく事を感じたため、英語の授業において雑談する時間を設ける事は大事だと気づいた。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(350字以上)</p> <p>研修前と後では英語に対する抵抗感が変化した。私が今まで日本で受けてきた日本の英語の授業はライティングとリスニングが主であり、スピーキング能力を高める事が難しかった。ネイティブの発音や表現などは日本の英語の授業で学ぶ事が難しかったので、英語で書かれている文章を読む事には慣れているが、英語で人と会話をする事には抵抗感を感じていた。しかし、今回の講義で英語のみで会話をしなければならない状況に置かれたことで、自分の思いや考えを伝えるためにとにかく英語を話すよう努力をする経験を積むことができ、以前持っていた抵抗感がなくなった。今回の研修を受けた後、研究室でスロベニアでのサンプリングがあり、ネイティブの方々と対面で会話をする機会があった。調査をする前日に行われたミーティングでは急に自己紹介の場が設けられ、英語で自己紹介を行うことが出来た経験からオンラインの研修ではあったが、受ける前と後での変化を実感できた。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(350字以上)</p> <p>小さい貢献ではあるが、私は高校生の頃からボランティア活動に興味を持ち、時々参加をしている。学部生の頃には、身体に障害を持つ子供たちとクリスマスツリーを作るといった、他者と関わるボランティア活動をするようになった。これからもボランティア活動を通して少しずつでも地域社会に貢献したいと考える。また、私は来年から主に防災関係設備の設計を行っている会社で働く予定だ。しかし、希望すれば半年の研修を経て、地元の地域で仕事をする形になっている。これは、地元で働く方が社員それぞれのモチベーションが高まるという事と、地元が抱える問題についてもよく理解できているため、業務の効率化に繋がるという事が理由だ。今後取り組んでいきたいことは、防災設備についての知識を学び災害による被害が多いと考えられる鹿児島に適した物を作り、鹿児島の一部にする事だ。私の目標は故郷である鹿児島に帰ってきて、人々の生活を脅かす災害から守る事で長年お世話になった地域社会の発展に寄与していきたいと考えている。</p>	